

令和2年5月21日

「一番苦しいときが 一番成長するとき」

～ 島農3年生の皆さんへ ～

高校生活最後の年にこのような事態になって、何と声をかけていいかわからないくらいに辛くて、残念で、申し訳ないという複雑な思いです。

4月22日から学校が休校となり、非日常の生活となりました。授業や学校行事も十分にできない「我慢の日々」が続いています。みんなが辛い毎日を送っていると思います。1日も早く皆さんの元気な声を聞き、明るく楽しい学校の日常が戻ってきてほしい、そして、コロナが「収束」に向かい、やがて完全に「終息」することを願いつつ、学校として様々な準備を進めてきたところです。

そんな中、今年度の高校総体の中止が決定されました。様々な状況から覚悟はできていましたが、実際に「中止」を告げられると、かなりのショックを受けました。運動部の皆さんのその想いは私以上でしょう。目標を失い、これまで積み上げてきたものは一体何だったんだろう？という思いの人もいるのではないのでしょうか。

高総体だけではなく、全国総文祭もWeb開催で例年通りにはできない模様です。農業クラブ連盟の各種大会も全国大会や九州大会が中止となり、県連大会も発表部門のみビデオ審査となる予定です。さらには、高校野球の夏の全国大会も中止となりました。全国レベルから校内の行事に至るまで、ほぼ1学期のイベントは、普通に実施できないのが現状です。全国的には、10月頃までの大会や会議の多くは、すでに中止が決定されています。

しかし、皆さんは何も悪くない。全く責任もない。たまたま、高校3年生であったがために、高校最後の年にもかかわらず、こうした現状を受け入れなければなりません。これからも「見えない敵」に負けるわけにはいかない、何よりも大切な「命」と「健康」を守らなければならないのです。

*最近、こんな言葉（名言）をよく聞くようになりました。

「ピンチはチャンス」「止まない雨はない」「耐える心に、新たな力が湧くものだ」

「辛いのは、幸せになる途中である」「一番苦しいときが 一番成長するとき」

「気持ちを切り替えろ!!」と言われても急には無理かもしれません。しかし、高校3年生の皆さんは、立ち止まることはできません。次のステージへ向かわなくてはなりません。どうか、今できること、この状況でもできることに前向きに取り組みましょう。チャレンジし続けましょう。想定外の事態だからこそ、どうか「考動」してください。

学校は、3年生の皆さんを全力でサポートしていきます。

令和2年5月21日 校長

前田 達彦